

環境経営レポート

日本システム開発株式会社
52期（2021年7月1日～2022年6月30日）



®環境省
エコアクション21
認証番号 0000875

2022年8月31日

NSKエコプロジェクト

目次

■計画の策定 (Plan)

1. 組織の概要
2. 対象範囲
3. 環境経営方針
 - 3-1 環境理念
 - 3-2 環境方針
 - 3-3 生物多様性保全宣言
4. 環境経営目標
 - 4-1 中期 (3年) 環境目標
 - 4-2 52期 環境目標
5. 環境経営計画
 - 5-1 52期 環境経営計画
 - 5-2 全社向け啓蒙 ポスター (52期環境活動)

■計画の実施 (Do)

6. 環境経営計画に基づき実施した取組内容
 - 6-1 実施体制
 - 6-2 52期の活動記録
 - 6-3 3年間の取組の推移(電力と廃棄物)

■取組状況の確認及び評価 (Check)

7. 52期取組結果とその評価、次年度取組内容
8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、違反・起訴等の有無

■全体の評価と見直し (Act)

9. 代表者による全体の評価と見直し・指示

1. 組織の概要

会社名	日本システム開発株式会社
設立	1971年（昭和46年）5月
資本金	1億円
代表者	代表取締役 亀井 政之
社員数	120名（2022年6月末現在）
事業内容	ソフトウェアの開発販売、旅行業ソリューション、 創薬研究支援サービス
事業所	●本社 東京都新宿区歌舞伎町2-4-10 KDX東新宿ビル 電話：03-6302-1371 FAX：03-6302-1391 ●創薬研究支援センター 東京都大田区平和島6-1-1 TRCセンタービル8 F
ホームページ	http://www.nsk.co.jp
事業所データ	●本社 KDX東新宿ビル6階 床面積：737.82㎡ ●創薬研究支援センター TRCセンタービル8 F 床面積：186.82㎡

2. 対象範囲

認証	登録番号：0000875
登録範囲	全社、全組織
レポート対象期間	令和3年7月1日～令和4年6月30日（当社52期）
レポート発行日	令和4年8月31日

3. 環境経営方針

3-1. 環境理念

2010年7月1日
日本システム開発株式会社
代表取締役 亀井 政之

当社は「地球資源が有限であることを認識し、環境保全に永続的に配慮していく」ことを重要経営課題のひとつとし、事業活動と地球環境の調和を目指して全社員が環境問題に積極的に取り組み、この取り組みを継続的に改善していくことで社会の安全と発展に貢献し社会的責任を果たします。

3-2. 環境方針

2011年7月策定, 2019年7月見直し
日本システム開発株式会社
代表取締役 亀井 政之

1. 全社員は、資源およびエネルギーの有限性を深く認識し、節約およびリサイクルに積極的に取り組み、環境負荷低減と環境汚染の予防に努めます。
2. 環境マネジメントシステムを構築し、環境目的・環境目標を具体的に設定し、運用、評価、見直しを実施して、継続的な改善に努めます。
3. 環境教育・周知活動を推進し、社員の環境意識の向上を図るとともに、環境方針を社外に公開します。
4. 事業活動にあたって、法規制、条例およびその他の要求事項を遵守します。
5. 当社の事業活動が生物多様性に与える影響を充分把握し、生物多様性の損失を防ぐ「自然共生社会」の実現に向けて取り組みます。
6. 業務遂行における資源削減、エコ素材推奨を推進します。

3-3. 生物多様性保全宣言

2011年3月策定
日本システム開発株式会社
代表取締役 亀井 政之

当社の事業活動が生物多様性に与える影響を充分把握し、生物多様性の損失を防ぐ「自然共生社会」の実現に向け、取り組んでまいります。

1. 生物多様性保全を、企業の重要課題のひとつとして捉え、事業計画、企画、開発、設計、製造、試験など、全ての事業活動において、生物多様性への影響を配慮します。
2. 電力等エネルギーの使用、水資源の利用、原材料の調達、化学物質や廃棄物排出などにおいて生物多様性への影響に配慮し、低減に努めます。
3. 顧客、取引先、地域社会、社員などのステークホルダーと連携した生物多様性保全活動を推進します。
4. 生物多様性保全の周知活動を推進し、社員の生物多様性保全への意識向上を図るとともに生物多様性保全宣言を社外に公開します。

4. 環境経営目標

4-1. 中期（3年）環境経営目標

中期（3年）目標（52期：2021年度～54期：2023年度）は以下の通り

2021年8月3日
承認：代表取締役 亀井政之
作成：環境管理責任者 三浦 未知央

●52期：2021年度～54期：2023年度の中期目標

環境経営方針	環境目的	環境経営目標(52期～54期)
1. 環境負荷の低減と環境汚染の予防	電力使用量の低減	51期 94,881kWh(本社実績)、 21,802kWh(TRC12月～6月実績) 52期 90,000kWh(本社) 作業量は昨年よりも若干減る可能性がある。 40,000kWh(TRC) 在宅作業中の社内PC終夜運転、窓開け空調稼働を考慮。 53期 85,000kWh(本社) 規模は本社の1/4、終日稼働の空調と 40,000kWh(TRC) 大型電気製品が多いため、電力使用量は本社の2倍を見込む 54期 80,000kWh(本社) 新型コロナの影響がさらに収まる想定 40,000kWh(TRC) 新型コロナの影響がさらに収まる想定 <i>—各年6名増による使用電力増を見込む一方で、作業時間の削減努力や節電対策による節電効果も織り込み、各年前年から数ポイント増を想定。</i>
	廃棄物の削減 本社のみ	一般 産廃 循環資源ゴミ 51期 1,815kg 5,540kg 1,295kg 実績 52期 1,900kg 5,000kg 1,200kg 一般は120kg/月、 産廃は350kg/月 循環は100kg/月で見積もる 53期 1,900kg 5,000kg 1,200kg 51期と同程度 54期 1,900kg 5,000kg 1,200kg 51期と同程度 <i>—一般、循環は各年3～8名増による廃棄量増を見込む一方で、削減対策による削減効果も織り込み、51期と同程度とする。 在宅勤務でゴミは減らない・出社する人のゴミが外食できないことで増えた。</i>
	作業時間の短縮	51期 平均163.9hour/month 実績 受注が多かった 52期 平均156hour/month 以下 49期と同程度 53期 平均156hour/month 以下 49期と同程度 54期 平均156hour/month 以下 49期と同程度 <i>—49期と同量を想定。(50期は休業者が多く、51期は受注が多かった)</i>
2. 教育・啓蒙	教育・啓蒙 広報	54期までの活動として以下を実践する ・環境活動への取組みを『見える化』するシステムを社員に使ってもらう。毎月8割以上。 ・社員へエコ関連の教育を実施する。 ・当社のEA21活動目標と具体的活動内容を共有する。 ・定期的にエコ委員会開催、エコ活動を円滑にするとともに活動状況を共有する。 ・後始末の徹底、プラごみ削減運動を推進
3. 法令遵守	法令遵守	関連法規をチェックし遵守する。
4. 生物多様性への配慮	生物多様性 保全	社員の生物多様性保全に対する意識を向上させる。
5. 業務における資源削減、エコ素材推奨	業務遂行における資源削減、エコ素材推奨を推進する	本業においての環境保全への配慮と貢献を意識し、推進する。 ITシステム・ITソリューションの提供を通じ、お客様、社会の環境負荷削減に貢献する。

● 3か年の具体的な施策案

- 1) 電力使用量低減に向け、作業時間の削減努力、エアコンの適正な利用管理、不要箇所の消灯の徹底等を実施する。
また低電力の新商品へ電子機器を買い替える対応も行っていく。
- 2) 廃棄物については、ペーパーレス化と適切なゴミの分別を徹底していく。
- 3) エコチャレンジシステムの毎月の利用を啓蒙し続ける。
- 4) ポスター、NSKカードで活動目標と具体的活動内容を共有する
- 5) エコ委員会活動を継続し、定期的に社員へ活動報告し、エコ推進を啓蒙する。
- 6) 創立記念式典で、社員へ生物多様性やエコに関連したセミナーを開催する。
- 7) 創立記念式典で、社員へエコ活動結果を報告・共有する。
- 8) お客様の業務効率改善、環境負荷削減を意識したシステムやアイデアを提供、提案する。

4-2.5 2期環境経営目標

環境方針	環境目的	環境経営目標
1.環境負荷の低減と 環境汚染の予防	電力使用量の低減	52期目標 90,000kWh(本社) 40,000kWh(T R C)
	一般廃棄物の分別	52期目標 (本社のみ) 一般廃棄物 1,900kg 循環資源ごみ 1,200kg
	産業廃棄物の 適正廃棄	52期目標 (本社のみ) 産業廃棄物 5,000kg
	作業時間の短縮	1人平均156hour/month 以下
2.教育・啓蒙	教育・啓蒙・広報	環境活動への取組みを『見える化』するシステムを社員に使ってもらう。毎月8割以上。 社員へエコ関連の教育を実施する。 当社のEA2 1 活動目標と具体的活動内容を共有する。 定期的にエコ委員会開催、エコ活動を円滑にするとともに活動状況を共有する。 後始末の徹底、プラごみ削減運動を推進する
3.法令遵守	法令遵守	関連法規をチェックし遵守する。
4.生物多様性への配慮	生物多様性保全	社員の生物多様性保全に対する意識を向上させる。
5.業務における資源 削減、エコ素材推奨	業務遂行における資源削減、エコ素材推奨を推進する	本業においての環境保全への配慮と貢献を意識し、推進する。 ITシステム・ITソリューションの提供を通じ、お客様、社会の環境負荷削減に貢献する。



当社作成
「エコチャレンジシステム」

各自がCO2削減目標を設定し、自己評価を行っていくことで、部門別や個人別でのCO2削減量が可視化できます。

5. 環境経営計画

5-1. 5 2期 環境経営計画

環境方針	環境目的	環境経営目標	手段	環境経営計画 担当者（責任者）	2021年 実施計画（月） 2022年														
					7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6			
1.環境負荷の低減と環境汚染の予防	電力使用量の低減	52期目標 90,000kWh(本社) 40,000kWh (T R C)	以下の実施状況を毎月チェック ・昼休み消灯 ・非使用場所の消灯 ・エアコン設定温度 ・扇風機の活用 ・離席時のディスプレイ消灯 ・主電源をこまめにOFF	エコ委員、事務局、（環境管理責任者）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	一般廃棄物の分別	52期目標（本社のみ） 一般廃棄物 1,900kg 循環資源ごみ 1,200kg	以下の実施状況を毎月チェック ・使い捨て製品の使用や購入抑制 ・ごみの分別の徹底 ・両面・集約印刷とコピー ・整理整頓	エコ委員、事務局、（環境管理責任者）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	産業廃棄物の適正廃棄	52期目標（本社のみ） 産業廃棄物 5,000kg	廃棄物の廃棄量の把握 廃棄マニフェストの適正管理	エコ委員、事務局、（環境管理責任者） 事務局、（環境管理責任者）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	作業時間の短縮	1人平均156hour/month 以下	作業時間の把握 作業の効率化、作業分担の工夫	エコ委員、事務局、（環境管理責任者） 部長、（環境管理責任者）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2.教育・啓蒙	教育・啓蒙・広報 環境活動への取組みを『見える化』するシステムを社員に使ってもらう。毎月8割以上。 社員へエコ関連の教育を実施する。当社のEA2 1活動目標と具体的活動内容を共有する。 定期的にエコ委員会開催、エコ活動を円滑にするとともに活動状況を共有する。 後始末の徹底、プラごみ削減運動を推進する	環境活動への取組みを『見える化』するシステムを社員に使ってもらう。毎月8割以上。 社員へエコ関連の教育を実施する。 当社のEA2 1活動目標と具体的活動内容を共有する。 定期的にエコ委員会開催、エコ活動を円滑にするとともに活動状況を共有する。 後始末の徹底、プラごみ削減運動を推進する	エコチャレンジの利用啓蒙 NSKカード着用確認 創立記念式典での教育 委員会議事録作成と周知・毎月のエコ目標の決定と周知 社員へNSKカード配布、エコポスター掲示	エコ委員、事務局、（環境管理責任者） 事務局、（環境管理責任者） エコ委員、事務局、（環境管理責任者） 事務局、（環境管理責任者）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		法令遵守	法令遵守 関連法規をチェックし遵守する。	関連法規の改正チェック 定期的な遵守チェック	環境管理責任者、（環境管理責任者）	○						○							
		4.生物多様性への配慮	生物多様性保全 社員の生物多様性保全に対する意識を向上させる。	創立記念式典で生物多様性の現状とその保全状況を社員へ周知	事務局、（環境管理責任者）														○
5.業務における資源削減、エコ素材推奨を推進する	業務遂行における資源削減、エコ素材推奨を推進する 本業における環境保全への配慮と貢献を意図し、推進する。 ITシステム・ITソリューションの提供を通じ、お客様、社会の環境負荷削減に貢献する。	以下の実施状況をチェック ・本業においてエコを意識しているか ・ITシステム・ITソリューション提供による、顧客と社会の環境負荷削減貢献	環境管理責任者、（環境管理責任者）	○							○								

今期目標を周知し、啓蒙する

52期エコプロジェクト目標

消費電力の削減

昼休み、不要場所の消灯
エアコンの節電（扇風機の活用）
不要時のPCの電源オフ

廃棄物の削減・リサイクル

ごみの分別
両面・集約印刷の推進
エコバッグの利用

労働時間の短縮

作業の効率化
作業分担の工夫

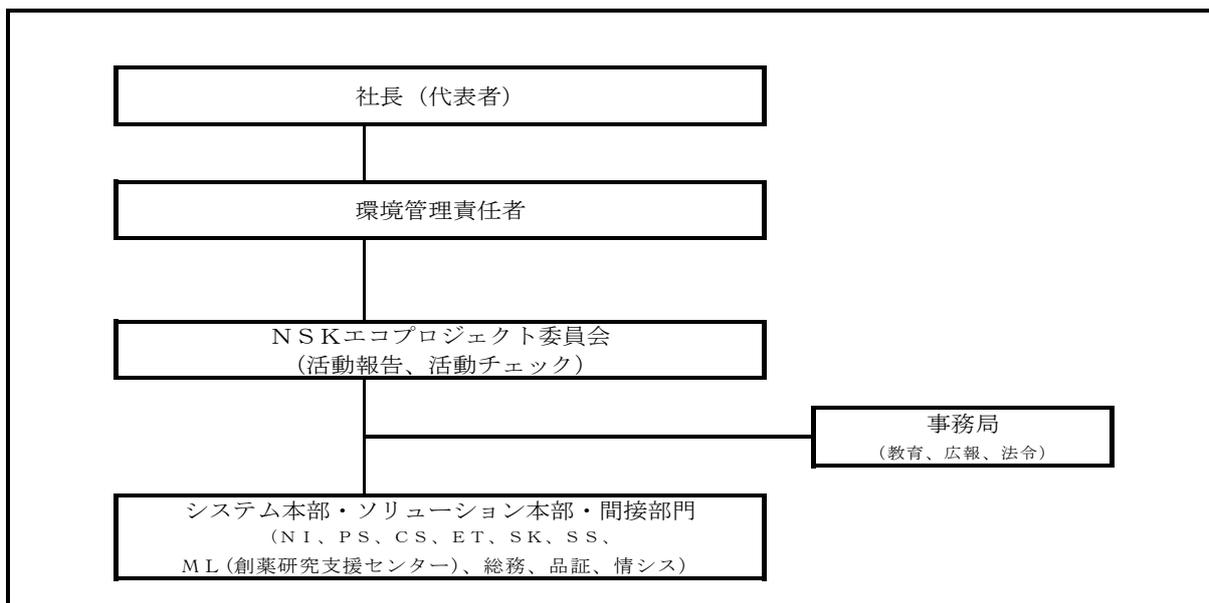


エコアクション21[®]
認証番号 0000875

日本システム開発 エコプロジェクト

6. 環境経営計画に基づき実施した取組内容

6-1. 実施体制



役割	責任及び権限
代表者	・環境経営方針の策定・見直し
	・経営の課題とチャンスを明確化する
	・環境経営レポートの承認
	・環境経営目標・環境経営計画の承認
環境管理責任者	・環境経営レポートの作成および確認
	・環境経営目標・環境経営計画の作成
	・環境活動の取組結果を代表者へ報告
事務局	・環境管理責任者の補佐、委員会の事務局
	・環境活動の実績集計
	・環境経営レポートの作成
委員	・自部門の環境活動実績の報告
	・委員会の決定事項を自部門へ周知

6-2. 52期の活動記録

エコプロジェクト・作業記録（52期：2021/07～2022/07）

年月日	内容	E A 2 1 対応目的	対象
2021年7月	52期エコ委員の選定	計画策定	事務局
	エコポスター作成・掲示（7/1）	教育・啓蒙	事務局
	B C P 関連資料、規程類の更新・公開（7/8）	教育・啓蒙	全社
	エコプロジェクト会議 議事録公開（7/20）	教育・啓蒙	エコプロジェクト委員・事務局
	夏季大掃除（7/30）	廃棄物	全社
2021年8月	エコプロジェクト会議 議事録公開（8/17）	教育・啓蒙	エコプロジェクト委員・事務局
	52期計画の公表 N S K カード作成・配布（8/31）	教育・啓蒙	全社
	環境活動レポート51期作成、公開（8/31）	教育・啓蒙	事務局
2021年9月	EA21更新審査 書類作成（9/1）	教育・啓蒙	事務局
	エコプロジェクト会議 議事録公開（9/21）	教育・啓蒙	エコプロジェクト委員・事務局
	E A 2 1 現地審査(10/5,10/6)	広報	全社
2021年10月	エコプロジェクト会議 議事録公開（10/19）	教育・啓蒙	エコプロジェクト委員・事務局
2021年11月	エコプロジェクト会議 議事録公開（11/17）	教育・啓蒙	エコプロジェクト委員・事務局
2021年12月	エコプロジェクト会議 議事録公開（12/21）	教育・啓蒙	エコプロジェクト委員・事務局
	年末大掃除（12/24）	廃棄物	全社
2022年1月	危機管理 緊急時連絡「災害伝言板」訓練実施（1/17～1/21）	教育・啓蒙	全社
	エコプロジェクト会議 議事録公開（1/18）	教育・啓蒙	エコプロジェクト委員・事務局
2022年2月	エコプロジェクト会議 議事録公開（2/15）	教育・啓蒙	エコプロジェクト委員・事務局
2022年3月	環境法規一覧チェック（3/15）	法令順守	エコプロジェクト委員・事務局
	エコプロジェクト会議 議事録公開（3/15）	教育・啓蒙	エコプロジェクト委員・事務局
2022年4月	新入社員へエコプロジェクトの説明(4/1)	教育・啓蒙	事務局
	エコプロジェクト会議 議事録公開（4/19）	教育・啓蒙	エコプロジェクト委員・事務局
2022年5月	エコプロジェクト会議 議事録公開（5/17）	教育・啓蒙	エコプロジェクト委員・事務局
	クールビズ実施（5/9～9月末予定）	地球環境への配慮	全社
2022年6月	来期計画発表会（6/24） 電気・廃棄物の報告	啓蒙・教育	全社（バトゥール東京にて）
	生物多様性に関するDVD視聴	〃	
	エコプロジェクト会議 議事録公開（6/21）	教育・啓蒙	エコプロジェクト委員・事務局

6-3. 3年間の取組の推移（電力と廃棄物）

●本社

【電力】

電力使用量記録月別 (kWh)

	50期	51期	52期
7月	8,077	8,547	10,404
8月	8,090	9,845	10,819
9月	6,871	8,581	8,204
10月	6,309	7,527	7,793
11月	5,703	6,417	6,649
12月	5,965	8,130	8,381
1月	5,744	8,401	8,216
2月	5,767	7,095	7,785
3月	5,557	7,419	7,285
4月	5,364	7,703	7,165
5月	6,090	6,647	7,072
6月	7,880	8,569	8,792
合計kW	77,417	94,881	98,565



前年比 122.6% 103.9%

- * 51期、52期は感染対策で換気をしており、その分空調使用が増えた
- * 50期の5月以降は在宅勤務が増え、リモート接続用に電源が常にONになっているPCが多く、電力使用量が増えた

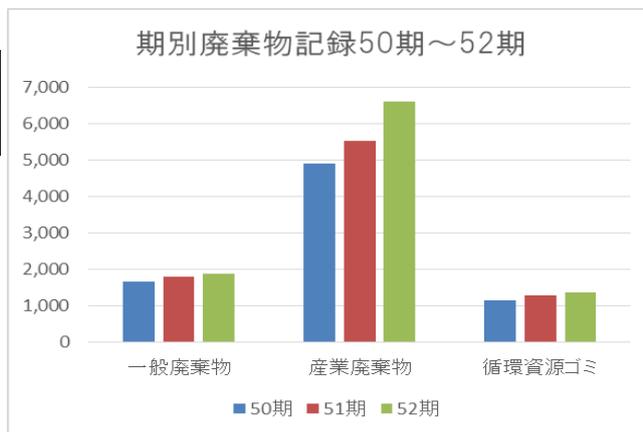
【電力のCO2換算】

	電力 kWh	調整後排出係数 (丸紅)	CO2換算 (kg-CO2)
50期	77,417	0.542	41,960.0
51期	94,881	0.542	51,425.5
52期	98,565	0.496	48,888.2

【廃棄物】

廃棄物記録期別 (kg)

	一般廃棄物	産業廃棄物	循環資源ゴミ
50期	1,675	4,912	1,160
51期	1,815	5,540	1,295
52期	1,885	6,600	1,360



- * 52期は、51期に比べ各種廃棄物量が増えており、特に産廃が増えているが、理由としては老朽化による廃棄PCが52期は多かったことがあげられる。

●創薬研究支援センター

T R C(創研) 電力使用量記録月別 (kWh)

	51期	52期
7月		5,290
8月		5,880
9月		3,832
10月		4,010
11月		2,512
12月	2,357	2,535
1月	3,268	2,556
2月	2,370	2,181
3月	2,834	2,718
4月	2,561	2,531
5月	3,218	3,277
6月	5,194	3,451
合計kW	21,802	40,773

【電力のCO2換算】

	電力 kWh	調整後排出係数 (東京電力)	CO2換算 (kg-CO2)
51期	21,802	0.455	9,919.9
52期	40,773	0.441	17,980.9

- * 化合物を管理しているので、部屋の状態を24時間一定の温度と湿度にしなければならぬため、夏は特に電気使用量が増える。
- * 52期の9月に空調を省エネタイプに買い替えた為、以降の消費電力は大きく減少している。(51期と52期の12月～6月の総消費電力を比較すると、1割以上削減できている。エアコンを多用する夏の期間にはその効果はさらに大きく表れるものと思われる。)

7. 52期取組結果とその評価、次年度取組内容

環境方針	環境目的	環境経営目標	実施項目	環境目標に対する実績と評価	次年度の取組み内容
環境負荷の低減と 環境汚染の予防	電力使用量の低減	本社 90,000kWh以内 TRC(創研) 40,000kWh	屋休みの消灯 非使用場所の消灯 エアコンの設定温度の確認 扇風機の活用 離席時、ディスプレイの消灯 主電源をこまめにOFF	本社 98,565kWh 目標未達 TRC(創研) 40,773kWh 目標未達	本社 95,000kWh以内 TRC(創研) 40,000kWh
	一般廃棄物の分別	一般廃棄物 1,900kg以内 循環資源ごみ 1,200kg以内	使い捨て製品の使用や購入抑制 ごみの分別の徹底 両面・集約印刷とコピー整理整頓	一般 1,885kg 目標達成 循環 1,360kg 目標未達	一般廃棄物 1,900kg以内 循環資源ごみ 1,300kg以内
	産業廃棄物の適正廃棄 作業時間の短縮	産業廃棄物 4,200kg以内 1人平均156hour/month以下	廃棄物の廃棄量の把握 廃棄時に業者に依頼しマニフェストの適正管理 作業の効率化、作業分担の工夫	産廃 6,600kg 目標未達 前期=平均163.9hour/month 今期=平均154.9hour/month 目標達成	産業廃棄物 5,500kg以内 1人平均155hour/month以下
教育・啓蒙	教育・啓蒙・広報	環境活動への取組みを『見える化』するシステムを社員に使用してもらう。毎月8割以上。 社員へエコ関連の教育を実施する。 当社のEA2.1活動目標と具体的活動内容を共有する。 定期的にエコ委員会開催、エコ活動を円滑にするとともに活動状況を共有する。 後始末の徹底、プラごみ削減運動を推進する	エコチャレンジ利用 創立記念式典 ポスターの掲示 委員会の会議内容を議事録にまとめ、社員に周知 NSKカードの携帯・着用チェック 毎月の活動結果の広報(社内web)	エコチャレンジの利用状況は9.5割以上 教育・啓蒙は定期的に行っている ポスター 掲示済みを確認した 問題なし 毎月、委員会の会議内容を議事録にまとめ周知している 携帯・着用チェック 実施済みを確認した 社内WEB 掲示済みを確認した 問題なし	環境活動への取組みを『見える化』するシステムを社員に使用してもらう。毎月8割以上。 社員へエコ関連の教育を実施する。 当社のEA2.1活動目標と具体的活動内容を共有する。 定期的にエコ委員会開催、エコ活動を円滑にするとともに活動状況を共有する。 後始末の徹底、プラごみ削減運動を推進する
法令遵守	法令遵守	関連法規をチェックし遵守する。	関連法規の改正チェック、定期的な遵守チェック	チェックされていることを確認した 問題なし	関連法規をチェックし遵守する。
生物多様性への配慮	生物多様性保全	社員の生物多様性保全に対する意識を向上させる。	創立記念式典で、生物多様性教育を実施	創立記念式典での周知を確認した。 問題なし	社員の生物多様性保全に対する意識を向上させる。
業務における資源削減、エコ素材推奨	業務遂行における資源削減、エコ素材推奨を推進する	本業における環境保全への配慮と貢献を意識し、推進する。 ITシステム・ITソリューションの提供を通じ、お客様、社会の環境負荷削減に貢献する。	パッケージソフトを売上げ、顧客のエコに貢献する(自社パッケージを販売することで顧客の業務効率化、資源効率化(ペーパーレス含む)を実現したもののみならず) ITシステム・ITソリューションの提供を通じ、お客様、社会の環境負荷削減に貢献する。	自社製品の販売 Tablet 8本 MDSS: 12本 医療系: 1本 問題なし	本業における環境保全への配慮と貢献を意識し、推進する。 ITシステム・ITソリューションの提供を通じ、お客様、社会の環境負荷削減に貢献する。

8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果 並びに違反、起訴等の有無

廃棄物処理法やフロン排出抑制法等の環境関連法規の遵守については、社内監査を適正に行っており、違反、訴訟等はありません。関係当局よりの違反等の指摘も過去3年間ありません。

9. 代表者による全体評価と見直し・指示

2022年8月31日
代表取締役 亀井政之
環境管理責任者 三浦 未知央

○環境経営方針について、見直しと指示

2006年のE A 2 1 認証取得以来、全社員が環境問題に積極的に取り組んでいる。特に毎月のエコチャレンジ実施により、社員のエコ意識は高く保たれている。今後も続けること。

○環境経営目標及び環境経営計画について、見直しと指示

- 1) 電力使用量については、前期に引き続き高止まりしている。
新型コロナウイルスへの対応として、窓を開けての空調利用、在宅勤務期間中のPC終日稼働があり、使用電力増加につながっている。
今後しばらくは、換気しつつの空調利用を念頭に入れた目標を立てていく。
- 2) ゴみの廃棄量については、産業廃棄物削減の目標を達成することができなかった。
新型コロナウイルスの影響で外食できず、社内で弁当容器やペットボトルを捨てるが増えたことも影響していると考えられる。プラごみ削減に向けた施策（例えばウォーターサーバー設置等）を考えていく。
- 3) 作業時間については、52期は51期から大きく改善した。53期も同程度の作業量を見込んでいる。
- 4) エコ、生物多様性の教育・啓蒙について
エコ、生物多様性については、例年通り、創立記念式典で全社員に向け教育・啓蒙した。
今後も続けること。
- 5) 法令遵守
環境関連法規の遵守状況は毎年確認しており、問題なし。
- 6) 業務における資源削減、エコ素材推奨
| Tシステム・| Tソリューションの提供を通じ、お客様、社会の環境負荷削減に貢献している。
53期も| Tシステム・| Tソリューション提供に力を入れていく。

○実施体制について、見直しと指示

創薬研究支援センター（ML部）にもエコ委員を配置した。委員を中心にエコ意識をしっかりとって活動してくれている。創薬研究センターの空調を9月に省エネタイプへ買換えており、以降は電力消費量が大きく削減出来ている。
次年度以降も現方針、目標、実施体制を変更せずに進めることとする。